

平成 20 年度海外研修報告

広島国際大学 山本 めぐみ

何よりもまず、今回の海外研修を企画、協力、協賛、実行してくださいました皆様に心よりお礼申し上げます。充実した楽しい、そして実りある研修でした。この研修を実施するにあたり、講演会、施設見学、親睦会等どんなにご尽力頂いたかと思いますと感謝の気持ちで一杯になります。ありがとうございました。

今回のスケジュールはおおまかに以下のようになっていました。

7月 21 日 Tour of Lucas Center and Cyclotron and Radiochemistry Facility

22 日 Cardiac MR/CT, CT Surgery, 3D LABOLATORY

23 日 Neuroradiology High Field MRI (7T)

24 日 Molecular Imaging, PET/CT

25 日 Future of Radiology

どの日のスケジュールも日常では体験できないもので、語り尽くせないほど印象深いものですが、授業の様子と親睦会について今回は書かせて頂きます。

今回訪れたスタンフォード大学は、東のハーバード、西のスタンフォードと言われるアメリカ屈指の名門大学です。抜けるような青空の下、ここで何よりも期待していた Michael Moseley, Ph.D. の講演を目の前で聞くことができました。普段、講演を聞く機会はほとんどありません。参加できる学会も限りがありますので、一生に一度あるか無いかではないでしょうか。参加者のためだけの 60 分の講演でした。活字のよさは勿論あります。分らないことを理解できるまで何度も読み返すことができ、好きな時間に好きなだけ読むことができます。しかし、臨場感の味わえる「生」の言葉もまた素晴らしいものがあります。その時、その場所で、その人の発する言語を聞くのもいいものだと思います。感動しました。

懇親会はワインとチーズの立食形式で、Sherman Outpatient Center のセンター長とセンター及び大学病院勤務の診療放射線技師の方々と開かれました。話すことで、今何を必要とされているのか、なぜ必要なのか、将来医療に何が望まれているのか、ラフな会話の中から見えてくるものがありました。国の違いで、同じ職業であっても、業務内容も社会的地位にも驚くほどの違いがあります。日本での診療放射線技師の教育や仕事内容、研究活動など実際に話す機会を持つことができよかったです。微力であっても理解してもらえる機会をもつことが出来たのは嬉しいことでした。

楽しむだけの旅なら私たちのまわりに、常に山ほどあります。しかし、今回のような大きな目的をもった研修に参加してみるのもとても有意義なことだと思います。研修スケジュールには、個人で望んでも叶わない夢が沢山組み込まれています。

皆様にまたいつの日かお会いできますように。ありがとうございました。



Sherman Outpatient Center 前にて。筆者前列左。